

テーマ：『 地域の環境に学び、地域の環境を大切にする子の育成 』

横浜市立 文庫小学校

Tel. 045-781-3368

担 当 近藤 幸信

者：



■実践内容：

横浜市立文庫小学校では、テーマである「地域の環境に学び、地域の環境を大切にする子の育成」をめざして、生活科(1・2年生)、総合的な学習(3～6年生)の実践を通してすすめてきた。

- 【1年生】 「はるとなかよし」「あきとなかよし」などの季節の自然に親しむ活動に取り組んだ。校庭や地域の公園などの草花や虫などの小動物とかかわり、葉やつるを使っての草花遊びやどんぐりを使った工作(どんぐりごまなど)、バッタなどの虫の飼育をして、生き物の不思議や命の大切さに気付く学習を展開してきた。
 - 【2年生】 「文庫のまちたんけんたい」では、地域に目を向け、まちの様々な場所・自然・人々に親しみをもってかかわり取り組みを行った。称名寺や海の公園、柴漁港の探検からまちの人・こと・ものへの気付きを深める学習を展開した。
 - 【3年生】 総合的な学習としてまちの環境に進んでかかわり、まちに愛着をもつことができるように学習をしてきた。称名寺の池にいる外来種について調査したり、海の公園にいる魚や貝やカニなどをつかまえて調べ、飼育したりと、まちの自然により深くかかわる活動をした。
 - 【4年生】 「この木何の木文庫の木」と題して校庭や地域の木について調べる活動や、「アルミ缶プロジェクト」と題してアルミ缶をリサイクルし、車いすに交換して地域の福祉施設に送る活動などに取り組んだ。地域の環境が人によって維持されていること、福祉とのかかわりもあわせてまちを考える学習を展開した。また、「風」に目を向けて立体凧に取り組み、自然エネルギーのすごさを感じる実践も行った。
 - 【5年生】 まちのゴミについて目を向け、公園や海などのポイ捨てゴミを減らすために定期的にゴミ拾いをしたり、区役所のG30(ゴミを減量するための横浜市での取り組み)と共同でボランティア活動をしたりと、まちの環境をよりよくしていこうとする学習を展開した。また、校内のトンボ池を整備し、いろいろな生き物が住めるような取り組みも行っている。
 - 【6年生】 まちの昔のことにも目を向け、称名寺の歴史や海岸の埋め立てなどを調べる学習を行った。学習を展開するなかで神奈川県立金沢文庫(博物館)や、区役所の地域振興課、海の公園管理事務所など、地域の人・物・ことに多面的にかかわるように学習を展開した。また、ペットボトルの活用としていかだを作り、浮力のすごさを感じながら海の公園で航海する実践も行った。
- 【個別支援学級】
学校や地域の畑などで野菜を栽培・収穫・調理をする活動を通して、まちの環境にふれ合う学習を展開した。

■実践成果：

本校の様々な実践により、子どもたちはそれぞれの学年・発達段階に応じて「まちの環境」を見つめ直すことができた。1・2年生は「まちのいろいろな環境を知る」ことができ、3・4年生は「まちの環境にかかわる」ことができ、5・6年生は「まちの人・物・ことにかかわり、協働する」ことができた。それにより、地域に愛着をもち、まちの環境を大切にする態度や心情をもつようになった。このことを毎年積み重ねていくことで、学校のキャッチフレーズ『友達が好き 学校が好き この「まち」が好き』につながっていくと考えている。今後も研究・実践を続けていく所存である。

■実践ポイント：

- 子どもたちが「まちの環境」に目を向けるように教師は以下のような手だてをもって実践してきた。
- ・まちの環境を知るために積極的に校外学習を行う
 - ・気づかせるための視点をあたえる(「どうしてここには外来種がいるのだろうか」「公園にごみ箱がないのはなぜ」など、子どもが関心をもって活動できるような視点)
 - ・生き物などは学校で飼育し、より日常的にふれあわせる
 - ・地域の人との関係を深める(柴漁港の漁師や称名寺の住職、ボランティアガイドなど)
 - ・保護者との協力、関係
 - ・行政や諸機関との関係(区役所や海の公園管理事務所、県水産試験場など)
- これらの手だてにより、子どもがより身近にまちの環境を感じ、活動する意欲につながった。
また、風とエネルギー(立体凧上げ)、浮力とエネルギー(ペットボトルいかだ)といった自然の力の大きさを実感する教材作りを子ど

もと教師が考えながら工夫していき、ものづくりの部分でも子どもたちが意欲的に活動できるようにした。